



練馬区立光が丘第一中学校

平成26年2月26日

2月6日 学校保健委員会開催

2月6日(木)、平成25年度学校保健委員会を開催いたしました。その内容をご報告いたします。

<出席者>

保護者の皆様

学校医 杉山先生、耳鼻科校医 大木先生、歯科校医 吉積先生、学校薬剤師 藤田先生
校長、副校長、教務主任、生活指導主任、養護教諭、栄養士

議題1. 今年度の学校保健活動報告

1. 定期健康診断の結果

- ・2年生は男女とも平均より、身長・体重・座高ともに低い値となりました。特に2年生女子は本校1年生より低い値となりました。
- ・アレルギー性鼻炎が男子29.3%、女子18.3%で都の値より高く、耳鼻科検診が4月の花粉症の時期であったことも考えられます。
- ・視力検査では、1年生女子の視力低下、めがね使用者が多く、D(0.3未満)の生徒が50%でした。中学生期は男子より女子の方が、また学年が上がるにつれ視力低下が進んでいて、めがね・コンタクトを装用する人が多くなります。近視が進む時期で、両眼がB以下の人には受診のお知らせを配布しているので、眼科で検査を受けてください。
- ・歯科検診では今年度初めて秋の歯科検診を実施し、春の検診後未受診等の生徒を対象として検診と個別指導を実施しました。全校の1/3にあたる103名が対象となり、治療率が上がることを期待したが、前年とほぼ変わらない40.8%でした。特に2、3年生男子の治療率が低かったです。
春の検診後むし歯や歯肉炎等があり「受診のお知らせ」を渡している生徒は、全体で62.4%いるので、保護者の方も検診後の結果に注目していただきたいと思えます。

2. 日本スポーツ振興センター災害給付状況

- ・昨年度より件数は少なかったです。(けがによるものが13件とその他2件)
- ・骨折の中には、手術・入院を伴ったもの、目・耳・歯のけがには、手術・入院したものや長期間経過観察が必要なもの等大きなけがとなったケースも数件ありました。

3. 感染症による出席停止状況

- ・今年度を通して、本校では感染性胃腸炎やインフルエンザ等の流行は今のところみられません。
- ・インフルエンザは都内で1月第3週に注意報が出された後一気に増加して、第4週に流行警報が発令されました。近隣の小中学校でも学級閉鎖などがあります。

4. 生活調査より(4月に全校生徒を対象に行った生活習慣調査)

- ・就寝時間は学年が上がるにつれて遅くなっていき、どの学年も男子より女子の方が遅い結果となりました。特に中学3年生になると23時以降に寝る人が、男子で50%以上、女子で70%以上います。
- ・ネット依存の調査(厚労省がH25年8月発表)によると、ネット依存の中高生は男子で6.4%、女子で9.9%、全国で51万8千人いると推定されています。ネット依存の症状は、気分の落ち込みや睡眠障害、午前中調子が上がらない等で、日常生活にも支障をきたしていることがあります。
- ・ネット依存と成績との関係について、全国学力テストの分析結果(文科省がH25年12月公表)によると、ネットを平日1時間未満と答えた生徒の正答率が最も高く、ネットの利用時間が長くなるにつれて正答率が下がり、一日4時間以上の生徒の正答率が最低でした。一方全く利用しない生徒の正答率が、一日1~2時間利用する生徒より低かったことから、平日1時間、休日2時間程度のネット利用なら学力に影響しないことがわかります。

議題2. 各校医の先生方からのお話

内科校医 杉山先生:「食物アレルギーの事例から対応について考える」

- ・乳幼児期では、鶏卵・牛乳・小麦が食物アレルギーを起こしやすい三大アレルゲンと言われているが、年齢によって原因となる食物が変化して新たに加わることもあれば、食べられるようになることもあるので、年1回は専門医で定期的に見直していく必要があります。
- ・ほとんど(8~9割程度)は皮膚症状(掻痒感やじんましん等)のみなので、抗ヒスタミン薬で治まることが多いです。
- ・鼻がつまってきた、くしゃみや咳を繰り返す、声がかすれる等の症状がでてきたら、緊急処置の必要あり、ただちに救急車を要請する必要があります。
- ・アレルギー症状は体調によって症状の出方が変わり、アスピリン系の薬を服薬しているときや女性の生理の時は症状が普段より強く出ることがあります。
- ・花粉症の人は口腔内アレルギーといって、果物を食べると口からのどの症状が出ることもあり、花粉と果物の抗原が似ていることからおこるものです。

歯科校医 吉積先生：「秋の歯科検診、個別指導を終えて」

- ・集団検診は、受診すべきかどうかのふり分けとなるので、結果を踏まえて受診してほしい。中学生になると一人で受診する場合も多くなり、受診率が低くなる傾向にあります。
- ・秋の歯科検診では個別指導を充実させるために、対象者をさらに絞り込み、時間をかけて指導していけるといいと思います。
- ・むし歯や歯周病の状態が極端に悪い生徒がいました。長年受診していない可能性があります。保護者への啓発をどのようにしていくかが今後の課題です。

耳鼻科校医 大木先生：「鼻呼吸・口呼吸について」

- ・風邪予防に鼻呼吸が良い。
- ・鼻には、空気の湿度を保つ加湿効果があります。口呼吸をすると乾いた空気が直接のどに入りのどを痛めたりウイルスなどに感染しやすくなります。
- ・口が乾くと歯周病の原因にもなります。
- ・咳が出るときだけでなく鼻が詰まっているときも、マスクをして乾いた空気がのどを痛めないようにする必要があります。

学校薬剤師 藤田先生：「環境衛生検査結果について」

- ・プールの遊離残留塩素値が基準より高いことがありました。天候や人数により変動するので細かくはかって管理する必要があります。
- ・1月に2クラスを対象とした空気検査で、対照的な結果となりました。暖房を消して窓やドアを閉め切っていた教室は、二酸化炭素濃度が基準値をオーバーし、一方、窓を開けていた教室は、二酸化炭素濃度は低かったが外気の湿度が22.9%と乾燥していたため、教室内の湿度が29%と基準値(30%)以下でした。このことより、暖房を弱くつけて廊下側の窓を一部開けて換気するほうが良いと思われます。

<お知らせ>

今週に入り、1年生でインフルエンザによる欠席者が増えてきました。

2月26日(水)現在、インフルエンザまたは発熱による欠席者

1年2組で3名、1年3組で4名

*ご家庭でも、朝の健康観察(いつもより元気がない・食欲がない・風邪症状の有無)と手洗い・うがいの徹底をよろしく願いたします。



学テ 小中生分析

ネット依存で成績低下

1日4時間超 正答率最低

インターネットを二日四時間以上する小中学生の成績は下がる。文部科学省が二十五日公表した全国学力・学習状況調査(全国学力テスト)の分析結果で、そんな傾向が浮き彫りになった。スマートフォンや携帯端末が普及し、深刻なネット依存は社会問題化しており、あらためて子どもとネットの関わり方に一石を投じた形だ。

(加藤文)

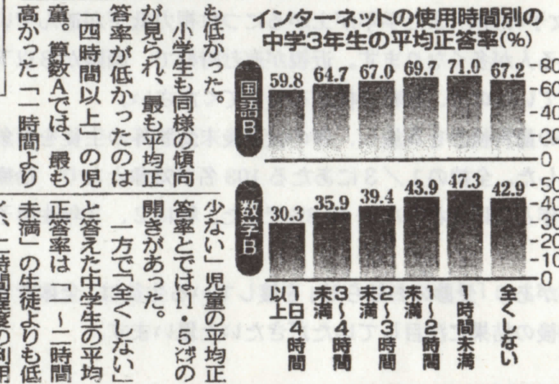
全国学力テストは四で、A問題(基礎学力)、B問題(活用)が出た。小学六年と中学三とB問題(活用)が出た。それによると、中学生に実施。国語、数学の二教科。テストの際に行ったアンケート。生は国語、数学のA B

の両問題とも、平日にインターネットをする時間を二時間より少ない」と答えた生徒の平均正答率が最も高かった。ネットの利用時間が長くなるにつれて平均正答率が下がり、「一日四時間以上」の児童、算数Aでは、最も生徒の平均正答率が最も高かった二時間より

ネット依存紙上診断

27面

少ない」児童の平均正答率とでは11・5%の開きがあった。



いひも確認された。テレビについても、一時間を超えて視聴すると比例して成績は下がったが、逆に全く見ない子どもは一時間未満視聴する子どもより成績は低かった。ネット依存の問題に詳しい民間団体「エンジェルズアイズ」(東京)の遠藤美季代表は「子どもたちが無目的にだらだらとネットを続けることのないよう、家庭や学校で時間を制限する指導が必要だ」と話した。